

臨床免疫学部門 Department of Clinical Immunology

当部門では免疫異常に基づく自己免疫疾患，血液疾患，内分泌代謝疾患，肝疾患など多岐にわたる病態を取り扱い，これらに関連した多彩な基礎的研究が行われている．すなわち，自己免疫疾患や血液疾患におけるリンパ球や免疫グロブリン遺伝子の解析，癌関連抗原 RCAS1 の発現，テロメラーゼの解析と活性制御機構などに関する研究と，細胞内脂肪滴構成蛋白に関する研究などで，平成 12 年度の研究成果と現状をまとめる．

1) 原発性マクログロブリン血症の腫瘍 B 細胞の由来する正常 B 細胞サブセットを明らかにし，また，変形性関節症の滑膜浸潤 B 細胞はオリゴクローナルであり，抗原特異的免疫反応が滑膜炎に關与していることを明らかにした．

2) 原発性胆汁性肝硬変症患者の門脈域浸潤 B 細胞がモノクローナルであることを明らかにした． 3) テロメラーゼ構成蛋白である TERT より 9mer のペプチドを HLA A24 陽性健常人の樹状細胞にパルスし，細胞障害性 T リンパ球を誘導した．HLA 拘束性，骨髓腫細胞株に対する効果を検討中である．

4) 癌関連抗原 RCAS1 は慢性関節リウマチ滑膜細胞に発現していることを明らかにし，その病態生理的意義と RCAS1 発現調節を介した抗炎症作用の可能性を探索している．

5) 細胞内脂肪滴構成蛋白 ADRP は脂肪細胞のほかに肝細胞，マクロファージに強く発現して脂肪酸取り込みを促進する．この蛋白の発現調節機構を明らかにするとともに，現在，炎症，動脈硬化，インスリン抵抗性などの病態への関与を検討している．

人事面では，平成 12 年 9 月 1 日付で坂井義之（内分泌代謝学）が米国ハーバード大学での留学を終え，助手に着任した．

A. 自己免疫疾患におけるリンパ球の解析

a. 慢性関節リウマチ関節滑膜内 B 細胞の役割

慢性関節リウマチ関節滑膜内 B 細胞については，なぜ関節滑膜に集積するのか，滑膜内で B 細胞は通常の二次リンパ組織と同様の分化，成熟を遂げているのかなど不明な点が多い．前者については B 細胞ホーミングやリンパ濾胞形成に關与する種々のサイトカインやケモカインの発現解析を介して，後者については滑膜内リンパ濾胞様構造内 B 細胞や浸潤形質細胞の免疫グロブリン遺伝子の構造解析を介してアプローチしている．

b. 全身性エリテマトーデスにおける骨髓内自己抗体産生 B 細胞の解析

全身性エリテマトーデスにおいては種々の自己抗体の産生がみられ，少なくともその一部は病態形成に關与していると考えられている．IgG 型自己抗体産生クローンは主に骨髓内に存在

すると考えられるが、末梢で成熟分化を終わった抗体産生 B 細胞の骨髄内での動態は不明な点が多い。我々は分泌型免疫グロブリン RNA の RT-PCR-SSCP 解析、PCR 産物の塩基配列の解析を通じて、全身性エリテマトーデスの病態と関連付けながら、骨髄内抗体産生 B 細胞の解析を行っている。

c. 慢性関節リウマチ滑膜における CXCR5 発現 T リンパ球の解析

CXCR5 は B 細胞に発現し、抗体産生の調節に関与していると考えられているケモカインレセプターであるが、リンパ濾胞中の CD4 陽性 T 細胞の一部に発現がみられることが最近報告されている。RA 患者の滑膜には B 細胞が集簇した濾胞様構造が見られ、この中にも CXCR5 陽性 T 細胞があり自己抗体の産生に関与していると可能性がある。われわれは、RA 患者滑膜中の CXCR5 陽性 T 細胞を解析し、これらの滑膜病変への関与を検討する。

B. 癌関連抗原 RCAS1 の病態における解析と発現制御機構に関する研究

a. 慢性関節リウマチ滑膜病変形成における癌関連抗原 RCAS1 の役割

我々は滑膜組織の免疫染色で RCAS1 が発現していることを見出した。滑膜培養細胞でも RCAS1 の発現を認めており、炎症性サイトカインの添加で低下することから RCAS1 が関節局所での炎症を制御している可能性が示唆される。慢性関節リウマチ関節滑膜における癌関連抗原 RCAS1 の役割を明らかにするために、関節滑膜での RCAS1 とそのレセプターの発現を検討するとともに、滑膜培養細胞を用い、種々の炎症関連サイトカインが滑膜細胞の RCAS1 産生に及ぼす影響を検討中である。

b. サルコイドーシス、間質性肺炎における RCAS1 の役割

サルコイドーシス、間質性肺炎の病態形成における RCAS1 の役割を明らかにするために、病期や病態別にこれら 2 疾患の開胸肺生検標本の RCAS1 の免疫染色を行うとともに、血清や気管支肺胞洗浄液 RCAS1 濃度を測定している。

c. 単球、マクロファージにおける RCAS1 の発現とその機能解析

Receptor-binding cancer antigen expressed on SiSo cells (RCAS-1) は 1999 年に中島らによって同定され、新しい癌関連抗原分子として脚光を浴びている。T リンパ球は RCAS1 レセプターを発現していると考えられているが、レセプター陽性細胞では RCAS-1 によりアポトーシス（細胞死）の誘導、細胞周期の停止に伴う増殖抑制が引き起こされることが報告されている。我々は RCAS-1 がヒト末梢血単球及び単球より培養して得られたマクロファージで発現していることを見出した。RCAS1 の発現は LPS、炎症性サイトカインの添加で変化し、RCAS1 が炎症の制御に深く関わっていることが示唆される。今後は RCAS1 の炎症部位における病態生理学的意

義を検討する．

d. RCAS1 発現を制御する薬剤の探索

チアゾリジン系インスリン抵抗性改善薬や Statin 系薬剤などはマクロファージの機能を制御し炎症を抑制することが報告されている．我々はこれらの薬剤による RCAS1 の発現調節をマクロファージ，滑膜細胞を用いて検討する．

C. 血液疾患・自己免疫疾患におけるテロメラーゼの解析と治療への応用

a. 多発性骨髄腫に対する抗テロメラーゼ細胞療法の確立

染色体末端のテロメアの長さの調節に中心的役割を果たすテロメラーゼの活性はほとんどの悪性腫瘍で検出されるが，正常細胞にはごく一部しか検出されないことが分かっている．われわれはこれまでに多発性骨髄腫においてテロメラーゼ活性が検出され，その強さは細胞増殖と密接な関連があり，IL-6 を添加培養すると活性の上昇が見られることを明らかにした．また，テロメラーゼ構成蛋白である TERT の一部はクラス I HLA によって細胞表面に表出しており，細胞療法の標的となる可能性が示唆されている．われわれは樹状細胞および細胞障害性 T リンパ球を用いた多発性骨髄腫に対する抗テロメラーゼ療法の確立をめざす．

b. 慢性関節リウマチ滑膜 T リンパ球のテロメラーゼ活性に対する TRAIL の効果

慢性関節リウマチ滑膜の CD4 T リンパ球は強いテロメラーゼ活性を持っていることが知られているが，その意義および調節機構については未知である．近年 TNF スーパーファミリーの TRAIL がマウスのコラーゲン誘発関節炎モデルにおいて発症を抑制すること，T リンパ球の細胞周期の進展を止めることが示された．われわれは慢性関節リウマチ滑膜より純化した CD4 T リンパ球に対する TRAIL の効果をテロメラーゼ活性，細胞周期，アポトーシスより検討する．

D. 細胞内脂肪滴構成蛋白の発現調節機構と機能解析および病態における検討

a. adipose differentiation-related protein (ADRP) の発現調節機構

ADRP は細胞内脂肪滴表面に存在する蛋白で，遊離脂肪酸の取り込みなど細胞内脂肪滴の形成に関与していると推測されるが，その機能はよく分かっていない．肝細胞，心筋細胞など発現を認める．この遺伝子の発現調節機構について検討を進めている．この蛋白の発現や機能を制御する方法を開発し，細胞内脂肪の過剰蓄積に基づく病態，たとえば脂肪肝，動脈硬化，インスリン抵抗性症候群などの治療への応用を探索する．

b. ADRP の蛋白構造の解析およびその関連遺伝子の探索

ADRP (adipose differentiation-related protein)やperilipin(PLN)は特に脂肪細胞において細胞内脂肪滴構成蛋白としての役割が報告されている。DRP と PLN はその N 末端の相同性が高く、共通の機能を担っている可能性が高いと思われるが、蛋白レベルでの構造解析は行われていない。そこで蛋白構造の一部を欠損したクローンによりその構造解析を行う。また、ADRP や PLN 以外にも細胞内脂肪滴構成蛋白が存在する可能性もあり、また、co-factor の存在する可能性も考え、関連遺伝子を同定する。

c. ADRP 過剰発現マウスの開発と解析

ADRP 過剰発現マウスを作製し、とくに膵 細胞機能、肝細胞機能、マクロファージ機能など個々の細胞の機能を解析するとともに、動脈硬化の発症、インスリン抵抗性など個体レベルでの表現型を解析し、ADRP の機能を明らかにする。

d. ADRP の各種病態での発現に関する検討

ADRP は多様な組織で発現している。種々の病態における ADRP の発現を組織学的に検索し、病態生理学的意義を検討する。

E. 自己免疫性肝疾患に関わる自己抗原および免疫グロブリン遺伝子の解析

a. 自己免疫性肝炎における LKM-1 抗体の検討

LKM-1抗体(liver kidney microsomal antibody type 1)は2型自己免疫性肝炎(AIH-2)に特徴的な自己抗体であり、一部のC型慢性肝炎患者血清中にも検出される。この抗体の認識する対応抗原は、チトクロームP-450のサブクラス2D6(CYP2D6)であることが知られている。杉村はドイツ・ハノーバー医科大学Manns教授と協同し、LKM-1抗体が立体的なepitopeを認識することを明らかにするとともに、そのconformational epitopeを形成する部位を同定した。このepitopeを用いてLKM-1抗体を高感度に定量する方法を作成し、本邦の肝疾患におけるLKM-1抗体の臨床的意義について検討予定である。

b. 原発性胆汁性肝硬変(PBC)の肝内門脈域浸潤B細胞における免疫グロブリン遺伝子の解析

自己免疫性肝疾患の一つであるPBCでは、特異的自己抗体である抗ミトコンドリア抗体とその対応抗原について解析が進められてきたが、実際に肝内門脈域にどのようなB細胞のクローンが存在しているかは不明である。我々はPBC患者の肝生検組織からmicrodissection法により得られた門脈域浸潤細胞のDNAを抽出し、PCR法を用いて免疫グロブリンH鎖可変領域の塩基配列を解析する事により、肝内門脈域浸潤B細胞のclonalityを検討中である。

業績目録

原著論文

1. Choi I, Muta K, Wickrema A, Kranz S, Nishimura J, Nawata H. 2000.
Interferon gamma delays apoptosis of mature erythroid progenitor cells in the absence of erythropoietin.
Blood 95:3742-3749.
2. Abe Y, Muta K, Ohsima K, Hirase N, Matsushima T, Yufu Y, Nishimura J, Nawata H. 2000.
Cytotoxic T-cell lymphoma diffusely involving the entire gastrointestinal tract associated with Epstein-Barr virus and tubercle bacilli infection.
Int J Hematol 71:379-384.
3. Abe Y, Muta K, Ohsima K, Yasumoto S, Shiratsuchi M, Saito R, Tsujita J, Shibata T, Furue M, Kikuchi M, Nishimura J, Nawata H. 2000.
Subcutaneous panniculitis by Epstein-Barr virus-infected natural killer (NK) cell proliferation terminating in aggressive subcutaneous NK cell lymphoma.
Am J Hematol 64:221-225.
4. Watabe R, Shibata K, Hirase N, Koder T, Muta K, Nishimura J, Nawata H. 2000.
Angiotropic B-cell lymphoma with hemophagocytic syndrome associated with syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone.
Ann Hematol 79:581-584.
5. Adachi M, Takayanagi R, Tomura A, Imasaki K, Kato S, Goto K, Yanase T, Ikuyama S, Nawata H. 2000.
Androgen-insensitivity syndrome as a possible coactivator disease.
N Engl J Med 343:856-862.
6. Sawabe T, Shiokawa S, Sugisaki K, Tsuda T, Yamamoto K. 2000
Accumulation of common clonal T cells in multiple lesions of sarcoidosis.
Mol Med 6:793-802.
7. Sakai Y, Demay MB. 2000.
Evaluation of keratinocyte proliferation and differentiation in vitamin D receptor knockout mice.
Endocrinology 141:2043-2049.
8. Hiramatsu S, Hoog A, Moller C, Grill V. 2000.
Treatment with diazoxide causes prolonged improvement of beta-cell function in rat islets transplanted to a diabetic environment.
Metabolism 49:657-661.
9. Hiramatsu S, Inoue K, Tajiri Y, Grill V. 2000.

- Improvement by aminoguanidine of insulin secretion from pancreatic islets grafted to syngeneic diabetic rats.
Biochem Pharmacol 60:263-268.
10. Shiratsuchi M, Muta K, Minami R, Motomura S, Suehiro Y, Abe Y, Shiokawa S, Umemura T, Nishimura J, Nawata H. 2001.
An aberrant form of BCR-ABL transcription with intronic insertion in a patient with Philadelphia chromosome positive chronic myeloid leukemia: Implication for disease progression
Leuk Lymph, 41(3-4): 411-415.
 11. Abe Y, Ohshima K, Shiratsuchi M, Honda K, Nishimura J, Nawata H, Muta K. 2001.
Cytotoxic T-cell lymphoma presenting as secondary myelofibrosis with high levels of PDGF and TGF-beta.
Eur J Haematol. 66(3):210-212.
 12. Hirase N, Abe Y, Ishikura H, Muta K, Nawata H, Nishimura J. 2001.
Autoimmune neutropenia with cyclic oscillation of neutrophilic count after steroid administration.
Int J Hematol, 73(3): 346-350.
 13. Sakai Y, Kishimoto J, Demay MB. 2001.
Metabolic and cellular analysis of alopecia in vitamin D receptor knockout mice.
J Clin Invest 107:961-966.
 14. Shiokawa S, Matsumoto N, Nishimura J. 2001.
Clonal analysis of B cells in the osteoarthritis synovium.
Ann Rheumat Dis, in press
 15. Matsushima T, Nakashima M, Oshima K, Abe Y, Nishimura J, Nawata H, Watanabe T, Muta K. 2001.
RCAS 1: A novel regulator of apoptosis of erythroid progenitor cells.
Blood, in press

症例報告

1. Shiokawa S, Miyazaki Y, Nakamura M, Nakayama T, Ohshima K, Suehiro Y, Yamamoto K, Nishimura J. 2000.
Expansion of identical B-cell clones in the bilateral parotid glands and their circulation in the peripheral blood in a patient with Sjögren's syndrome.
Mod Rheumatol 10:58-61.
2. Nakamura M, Shiokawa S, Miyazaki Y, Kita H, Setoguchi K, Kawahata K, Misaki Y, Yamamoto K, Nishimura J. 2000.
Diffuse intervertebral disk calcification in a patient with rheumatoid arthritis.
J Med Invest 47:152-154.
3. 松木美香子, 本村誠一, 喜多宏人, 中村教泰, 平山健司, 末広陽子, 谷口 晋, 塩川左斗志, 生山祥一郎, 西村純二. 2000.
偽性腸閉塞を合併した全身性強皮症の2症例.
九州リウマチ 19:78-81.
4. 中村教泰, 宮崎吉孝, 喜多宏人, 塩川左斗志, 瀬戸口京吾, 川畑仁人, 三崎義堅, 山本一彦, 西村純二. 2000.
下腿圧痕浮腫を伴ったリウマチ性多発筋痛症の一例.
九州リウマチ 19:97-100.
5. 松木美香子, 本村誠一, 喜多宏人, 中村教泰, 平山健司, 末広陽子, 谷口 晋, 塩川左斗志, 生山祥一郎, 西村純二, 吉河康二. 2000.
潰瘍性大腸炎と強直性脊椎炎を合併した一例.
臨床リウマチ 12:289-294.
6. 三浦史郎, 白土基明, 福留克行, 原田直彦, 安部康信, 牟田耕一郎, 名和田 新. 2000.
膀胱炎及び腹膜炎を主徴とした全身性エリテマトーデスの一例.
九州リウマチ 19:51-55.
7. 谷口 晋, 生山祥一郎, 平松真祐, 高柳涼一, 名和田 新, 西村純二. 2000
トログリタゾンが有効であった多嚢胞性卵巣症候群(PCO)の一例.
ホルモンと臨床 48 (夏季増刊号):176-180.
8. 福本 仁, 本村誠一, 平山健司, 谷口 晋, 明石泰郎, 平松真祐, 末廣陽子, 杉村隆史, 塩川左斗志, 生山祥一郎, 西村純二. 2001.
免疫抑制剤による膠原病治療中に急性骨髄性白血病および骨髄異形性症候群を合併した二例
九州リウマチ 20: 47-50.

研究報告書

1. 生山祥一郎, 谷口 晋, 西村純二. 2000.
細胞内脂肪滴形成機構に対する成長ホルモンの作用の解明: とくに adipose differentiation-related proteinの発現調節について.
財団法人成長科学協会研究年報 23:115-117.

総説

1. Nishimura J, Ikuyama S. 2000.
Glucocorticoid-induced osteoporosis: pathogenesis and management.
J Bone Miner Metab 18:350-352.
2. 西村純二. 2000.
慢性骨髄性白血病.
Year note 2001, Selected article, pp983-989.
3. 牟田耕一郎, 名和田 新, 西村純二. 2000.
造血と血球のアポトーシス.
血液フロンティア 10:37-44.
4. 白土基明, 西村純二. 2000.
特発性好塩基球減少症(自己免疫性).
日本臨床 領域別症候群シリーズ No.31 免疫症候群(上): 186-187.
5. 生山祥一郎, 名和田 新. 2000.
内分泌学的診断: 先端巨大症.
CLINICAL NEUROSCIENCE 18:52-55.
6. 生山祥一郎, 名和田 新. 2000.
内分泌クリーゼ b. 粘液水腫昏睡.
臨床医 26:1364-1366.
7. 生山祥一郎, 名和田 新. 2000.
下垂体細胞分化の転写因子による調節とその異常.
現代医療 32:1631-1637.
8. 塩川左斗志. 2000.
難治性リウマチの概念.
医薬ジャーナル 36:1179-1182.
9. 塩川左斗志. 2000.
慢性関節リウマチにおける骨粗鬆症.
治療学 34:1180-1182.
10. 谷口 晋, 生山祥一郎, 名和田 新. 2000.

サーカディアンリズムとホルモン分泌.

CLINICAL NEUROSCIENCE 18:50-52.

11. 折茂 肇, 林 泰史, 福永仁人, 曾根照喜, 藤原佐枝子, 白木正孝, 串田一博, 宮本繁仁, 宗圓 聡, 西村純二, 大橋靖雄, 細井孝之, 五来逸雄, 田中浩之, 猪飼哲夫, 岸本英彰. 2001.
原発性骨粗鬆症の診断基準 (2000 年度改訂版)
日本骨代謝学会雑誌 18: 76-82.
12. 工藤義弘, 生山祥一郎. 2001.
生活習慣病予防に対する理学療法の効果とその限界.
理学療法 18:174-181.

著書

1. 西村純二. 2000.
血液・造血器疾患, 白血球系の異常.
Year Note 内科・外科等編 第10版 ppG-37-67, Medic Media, 東京.
2. 生山祥一郎. 2000.
甲状腺機能低下症.
今日の治療指針 2000年版 pp599-600, 医学書院, 東京.
3. 生山祥一郎, 名和田 新. 2000.
テオフィリンと甲状腺ホルモン剤.
この薬の多剤併用副作用 第2版 pp198-201, 医歯薬出版, 東京.
4. 塩川左斗志. 2001.
B細胞.
リウマチナビゲーター pp18-19, メディカルレビュー社, 東京.
5. 塩川左斗志. 2001.
免疫グロブリン.
リウマチナビゲーター pp20-21, メディカルレビュー社, 東京.

学会発表

国際学会

1. Demay MB, Sakai Y. (2000, 5/27-6/1).
Alopecia in vitamin D null mice.
11th Workshop On Vitamin D, Nashville, USA.
2. Demay MB, Sakai Y. (2000, 5/).

- Alopecia in vitamin D null mice.
Boston Receptor Conference, Boston, USA.
3. Hiramatsu S, Nishimura J, Waldemar G. (2000, 6/9-13) .
Effects associated with high fat diet on insulin secretion and biosynthesis in pancreatic islet transplants to diabetic rats: no evidence for “lipotoxicity”.
60th Annual Meeting and Scientific Sessions of the American Diabetes Association, San Antonio, USA.
 4. Sakai Y, Demay MB. (2000, 9/22-9/26).
Failure of anagen initiation in vitamin D receptor knockout mice.
22nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research.
Welcome Reception and Plenary Poster Session, Toronto, Canada.
 5. Jones G, Byford V, Sakai Y, Demay M. (2000, 9/22-9/26).
Dramatic reduction of 1,25-(OH)2D3 catabolism in keratinocytes from VDR-null mice.
22nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research, Toronto, Canada.
 6. Ikuyama S, Taniguchi S, Kuwano M, Nishimura J. (2000, 10/22-10/27).
Expression of adipose differentiation-related protein (ADRP) is regulated by thyroid hormone and PPAR ligands in mouse macrophage J774.1 cells .
12th International Thyroid Congress, Kyoto, Japan.
 7. Matsushima T, Nakashima M, Abe Y, Nishimura J, Watanabe T, Muta K. (2000, 12/1-12/5).
RCAS1: A novel regulator of apoptosis of erythroid progenitor.
42nd Annual Meeting of American Society of Hematology, San Francisco, USA.
 8. Minami R, Motomura S, Umemura T, Nishimura J, Muta K. (2000, 12/1-12/5).
Key role of p16 in erythroid differentiation and apoptosis.
42nd Annual Meeting of American Society of Hematology, San Francisco, USA.

シンポジウム

1. 牟田耕一郎, 西村純二. (2000, 3/16-18) .
シンポジウム：赤芽球系前駆細胞のアポトーシスと疾患.
第 62 回日本血液学会総会, 福岡.
2. 牟田耕一郎, 西村純二. (2000, 5/11-12) .
シンポジウム：アポトーシスと白血化.
第 49 回日本臨床衛生検査学会, 那覇.
3. 生山祥一郎, 谷口 晋, 井口登與志, 今村美菜子, 西村純二. (2000, 8/26) .
招待講演：脂肪滴構成蛋白 ADRP の発現調節機構.

第5回アディポサイエンス研究会，大阪．

国内学会

1. 明石泰郎，谷口 晋，塩川左斗志，平松真祐，生山祥一郎，西村純二．(2000, 2/5)．
稀発月経で発見された遅発型3- β -OH steroids dehydrogenase(3- β -HSD)欠損症の1例．
第248回日本内科学会九州地方会，福岡．
2. 谷口 晋，生山祥一郎，平松真祐，笹野公伸，秦 聡孝，佐藤文憲，今川全晴，西村純二．
(2000, 2/22)．
cortisol 産生能を有した原発性アルドステロン症の一例．
第66回大分県内分泌同好会，大分．
3. 福本 仁，本村誠一，平山健司，谷口 晋，明石泰郎，平松真祐，末廣陽子，杉村隆史，
塩川左斗志，生山祥一郎，西村純二．(2000,3/4-5)．
免疫抑制剤による膠原病治療中に骨髄性白血病を合併した2例．
第19回九州リウマチ学会，久留米．
4. Suehiro Y, Shiokawa S, Uike N, Muta K, Nishimura J. (2000, 3/16-3/18).
Analysis of immunoglobulin μ and δ mRNA transcripts in Waldenström's
macroglobulinemia.
第63回日本血液学会総会，福岡．
5. 白土基明，木原 亨，安部康信，牟田耕一郎，名和田 新，西村純二．(2000, 3/16-3/18)．
多発性骨髄腫におけるテロメラーゼ活性の臨床的検討．
第63回日本血液学会総会，福岡．
6. 南 留美，牟田耕一郎，本村誠一，安部康信，西村純二，名和田 新．(2000, 3/16-18)．
K562におけるp16の分化，アポトーシスに与える影響の検討．
第62回日本血液学会総会，福岡．
7. 福本 仁，本村誠一，谷口 晋，末廣陽子，明石泰郎，平山健司，平松真祐，杉村隆史，
塩川左斗志，生山祥一郎，西村純二．(2000,3/23)．
若年性リウマチの経過中に発症した急性好塩基球性白血病の一例．
第54回大分県リウマチ懇話会，大分．
8. 松坂浩史，板場壮一，本村廉明，牟田浩実，前田豊樹，千ヶ岩芳春，末廣陽子，西村純
二，吉川康二．(2000, 3/30-31)．
放射線照射，回盲部切除後に巨赤芽球性貧血を呈した一例．
第75回日本消化器病学会地方会，鹿児島．
9. 福元 仁，末廣陽子，本村誠一，白土基明，塩川左斗志，西村純二．(2000, 4/20)．
若年性関節リウマチの経過中に発症した二次性白血病（急性好塩基球性白血病）．

- 第 56 回大分臨床血液懇話会，大分。
10. 塩川左斗志，松本直之，西村純二。(2000, 5/13-5/15).
変形性関節症患者病変関節内 B 細胞のクロノタイプ解析。
第 44 回日本リウマチ学会総会，横浜。
 11. 末広陽子，本村誠一，平山健司，谷口 晋，平松真祐，杉村隆史，塩川左斗志，生山祥一郎，
安部康信，牟田耕一郎，西村純二。(2000, 5/13-5/15).
骨髄性白血病を合併した自己免疫疾患の自験 8 症例の解析。
第 44 回日本リウマチ学会総会，横浜。
 12. 谷口 晋，生山祥一郎，平松真祐，塩川左斗志，西村純二。(2000, 5/21).
cortisol, aldosterone 同時産生副腎腫瘍の一例。
第 249 回日本内科学会九州地方会，佐賀。
 13. 平松真祐，西村純二，梅田文夫，名和田 新，Grill Valdermar。(2000, 5/25-5/27).
糖尿病ラットに移植した豚ラ氏島からのインスリン分泌，生合成に及ぼす高脂肪食の影響。
第 44 回日本糖尿病学会総会，名古屋。
 14. 生山祥一郎，平松真祐，谷口 晋，西村純二。(2000, 6/16-6/18).
ミトコンドリア遺伝子異常を伴う糖尿病に偽性副甲状腺機能低下症(PHP)類似の臨床所見を呈した 1 例。
第 73 回日本内分泌学会学術総会，京都。
 15. 谷口 晋，生山祥一郎，平松真祐，笹野公伸，西村純二。(2000, 6/16-6/18).
cortisol 産生能を有した原発性アルドステロン症の 1 例。
第 73 回日本内分泌学会学術総会，京都。
 16. 杉村隆史。(2000, 6/23).
肝癌の診断と治療。
第 1 回畑病院学術集会，別府。
 17. 谷口 晋，白土基明，杉村隆史，塩川左斗志，生山祥一郎，西村純二。(2000, 6/29).
リンパ節腫脹，多関節痛をきたした持続性パルボウイルス感染症の一例。
第 56 回大分県リウマチ懇話会，大分。
 18. 白土基明，杉村隆史，末広陽子，西村純二。(2000, 7/13).
帯状疱疹ウイルスによる血球貪食症候群を合併した慢性関節リウマチの 1 例。
第 57 回大分臨床血液懇話会，大分。
 19. 谷口 晋，生山祥一郎，西村純二。(2000, 7/25).
Pioglitazone が著効した先端巨大症の一例。

- 第2回別府DM会，別府.
20. 福元 仁，谷口 晋，白土基明，杉村隆史，塩川左斗志，河野佳子，生山祥一郎，西村純二. (2000, 8/19).
悪性症候群と紛らわしい病態を頻発した ACTH 単独欠損症の1例.
第250回日本内科学会九州地方会，鹿児島.
21. 杉村隆史，谷口 晋，塩川左斗志，生山祥一郎，西村純二. (2000, 9/15-9/16).
バセドウ病に混合性結合織病(MCTD)と自己免疫性肝炎を合併した一例.
第20回九州リウマチ学会，福岡.
22. 谷口 晋，福元 仁，島田文雄，白土基明，杉村隆史，塩川左斗志，生山祥一郎，西村純二. (2000, 9/21).
脊椎カリエスに腸腰筋内膿瘍の合併が疑われた悪性関節リウマチの一例.
第57回大分県リウマチ懇話会，大分.
23. 末廣 悟，白土基明，末廣陽子，西村純二. (2000, 10/19).
難治性の自己免疫性血小板減少症を合併した AILD の一例.
第58回大分臨床血液懇話会，大分.
24. 谷口 晋，生山祥一郎，平松真祐，西村純二. (2000, 10/20-10/21).
ピオグリタゾンが著効した先端巨大症に伴う二次性糖尿病の1例.
第38回日本糖尿病学会九州地方会，福岡.
25. 白土基明，末広陽子，本村誠一，西村純二. (2000, 11/8-11/10).
若年性関節リウマチに対する免疫抑制療法中に発症した急性好塩基球性白血病の1例.
第42回日本臨床血液学会総会，倉敷.
26. 安部康信，原 敬一，崔 日承，松島孝充，名和田 新，牟田耕一郎，山本政弘，末松栄一，西村純二. (2000, 11/8-10).
腫瘤形成を認めず，血球貪食症候群を合併した B 細胞性リンパ腫の2例.
第42回日本臨床血液学会総会，倉敷.
27. 原 敬一，崔 日承，安部康信，牟田耕一郎，名和田 新，西村純二，稲澤譲治，小川真澄，栗原直樹，小木美恵子. (2000, 11/8-10).
核型が急激に変化した1症例：m-FISHによる解析.
第42回日本臨床血液学会総会，倉敷.
28. 末廣 悟，白土基明，末廣陽子，谷口 晋，杉村隆史，塩川左斗志，生山祥一郎，西村純二. (2000, 11/19).
難治性の自己免疫性血小板減少症を伴った血管免疫芽球性 T リンパ腫 (AILD) の1例.
第251回内科学会九州地方会，熊本.
29. 白土基明，末廣陽子，西村純二. (2001, 1/18).

消化管原発 CD4 陽性リンパ腫の 1 例.

第 59 回大分臨床血液懇話会, 大分.

30. 畠中文香, 合田英明, 杉村隆史, 谷口 晋, 白土基明, 塩川左斗志, 生山祥一郎, 西村純二. (2001, 2/3).

膠原病様の病態を呈したパルボウイルス B19 感染症の 5 例.

第 252 回日本内科学会九州地方会, 福岡.

31. 谷口 晋, 生山祥一郎, 坂井義之, 西村純二. (2001, 3/10-3/11).

抗うつ剤投与, 感染を契機に悪性症候群を呈した ACTH 単独欠損症の 1 例.

第 11 回臨床内分泌代謝 Update, 東京.

32. 北村陽介, 白土基明, 末廣陽子, 谷口 晋, 坂井義之, 杉村隆史, 塩川左斗志, 生山祥一郎, 西村純二. (2001, 3/29).

赤芽球癆を合併したシェーグレン症候群の一例.

第 59 回大分県リウマチ懇話会, 大分.

講演

1. 西村純二. (2000, 2/5).

自己免疫性血液疾患の診断と治療.

第 21 回日本内科学会九州支部生涯教育講演会, 福岡.

2. 西村純二. (2000,3/3).

講演: C M L は何を教えてくれたか?

第 24 回福岡 BRM 研究会, 福岡.

3. 生山祥一郎. (2000, 4/27).

講演: 高脂血症治療の新しい展開.

東国東郡医師会学術講演会, 国東町.

4. 西村純二. (2000, 8/24).

講演: 血液診療 A to Z.

中津市医師会学術講演会, 中津.

5. 西村純二. (2000, 11/30).

特別講演: 膠原病・リウマチ性疾患と血液異常.

第 58 回大分県リウマチ懇話会, 大分.

6. 杉村隆史. (2001, 2/17).

アルコールと病気.

第 93 回別府市医師会 市民健康教室, 別府.

7. 杉村隆史. (2001, 3/23).

原発性胆汁性肝硬変の治療「日常生活での過ごし方」.
大分県中央保健所 原発性胆汁性肝硬変相談会, 別府.